

大人の遠足合宿 “伊豆山” “蛾ヶ岳” “堂平山”

西 正子

「大人の遠足合宿」と銘打って、2019年～2020年、1泊2日の山行を4回企画しました。

- ① 朝立ち 基本は電車利用で、泊まりの縦走
- ② 自炊を楽しむが、荷物は軽く
- ③ 万が一のエスケープルートが豊富

簡単に言えば、目白の年齢にふさわしく？貸別荘などを利用し、食材のみを持参する自炊山行です。発案時は「みんな、来てくれるかしら？」と心臓がドキドキ・・・。

でも、結果を見れば、多くの人に加わって、にぎやかな登山ができました。

宿の布団が足りず、シュラフを持参して下さった白井さん、たくさんの食材を車に乗せて、小屋まで運んで下さった八木さんには、この場でお礼申し上げます。

●伊豆山稜線歩道

1回目 2019.7/13(土)～14(日)

天城峠バス停→猫越岳→船原峠→大曲茶屋
島崎 横堀 岩田 白井 西A 西M

2回目 2020.10/24(土)～25(日)

船原峠→達磨山→金冠山→戸田峠→修善寺
松田 白井 西A 西M

約43キロのコースを2回に分け、計4日間かけて歩きました。

宿泊は、西天城高原牧場の家(1回目)とだるま山高原ロッジ(2回目)で、どちらもドライブインが経営するロッジ風貸別荘です。

伊豆山稜線歩道に顕著な山頂はありません。700m～1000mくらいのたおやかな尾根を、登ったり下ったりします。特に悪場は無く、道標も整備されているので、のんびり縦走したい人にはもってこいだと思います。

前半は樹林道が続きます。明るい広葉樹に、檜や杉などの人工林が混ざり、独特の景色が広がっていました。

ちょっと意外だったのが、ブナの木之多さです。

大樹ではありませんが、どの幹も四方八方、自由に枝を伸ばし、いかにも南国調なのです。

縦走が中盤から後半へとすすむと、樹木の背はしだいに低くなります。緑の笹原が山肌を覆い、空が気持ちよいほど大きく開けてきました。

尾根の北端、金冠山(816m)は「伊豆三景」に選ばれているだけあって、山頂からは霊峰富士山と駿河湾の水面が見事で、北斎の水墨画を連想してしまいました。

「海」のイメージが強い伊豆にあって、あまり注目されていない縦走路です。しかし変化に富んだ景色と東京からの近さを考えると、登山者がもっと増えても不思議はない場所だと感じました。



旧天城トンネル

●市川本町駅から蛾ヶ岳(ひるがたけ)

2019.12/21(土)～22(日)

島崎 横堀 岩田 白井 八木 西A 西M

市川本町駅→四尾連峠→四尾連湖・水明荘→蛾ヶ岳→四尾連峠→市川本町駅

身延線・市川本町駅(260m)から蛾ヶ岳(1279m)を目指す往復登山。途中、四尾連湖畔の「水明荘・自炊棟」に1泊しました。

水明荘へは、登山道とは別に道路が通じています。あらかじめ食料や飲物を車で運び上げ、身軽

な装備で登れたことが、標高差 1000mの山行が成功できた大きな要因だと思っています。

登山道は終始樹木に覆われていますが、冬のこの時期、山麓は赤や黄色の紅葉のなごりが、1000mを越えると冬枯れの覆う景色が、まるで日本画のようでした。いっぽうで、この道は昔の富士講古道。お地蔵様や石碑が多く、いにしえの人の信仰心の厚さを見ることもできました。

蛾ヶ岳最大のサプライズは、山頂に立つと、いきなり姿を現す富士山です。その大きく雄大な高嶺は、誰もが歓声を上げずにはいられないほど神々しいものでした。



富士山を背景に蛾ヶ岳山頂

●笠山から堂平山、慈光寺まで

2020.12/18(金)～19(土)

横堀 西A 西M

皆谷→笠山→堂平山→七重峠→慈光寺→慈光寺入口

台風による道路崩壊、コロナの影響などが重なり、三度目の正直となった難産山行です。

「外秩父七峰縦走」の一部を登り「ときがわトレッキングコース」を下りに使うルートは、おだやかな登降に終始しました。山奥まで延びる林道はたびたび登山道と交差するので、時間によっては歩く道を使い分けることも可能です。

皆谷バス停から笠山(837m)を越え堂平山までは絵に描いたような「奥武蔵的な山」です。すっかり落葉した樹間越しに、忘年ハイクで登った破風山がかわいらしく見えました。

岩峰笠山から 1 時間ほどで着く堂平山(875.9m)は、平らで広い山頂になっています。天文台、キャンプ場、ハングライダー練習場が広がっていました。

堂平山からは、下り道が慈光寺まで続いています。山腹を巻いたり、舗装林道を辿ったり。

標高を下げるにしたがい、素朴な山村風景が目に入るようになります。黄色の実がたわわな柚子林を見ながら、3 時間ほどで坂東三十三観音霊場のひとつ慈光寺の山門に到着しました。

この縦走 2 日間は、数年に一度の大寒波が日本列島を襲い、山でも寒風に震えましたが、その分空気は澄んでいました。堂平山から眺めると秩父連山から浅間方面、遠くは筑波山まで 360 度の大展望、夜は東京から横浜方面の夜景がとてもきれいでした。

宿泊は山頂の天文台。1962 年から 2000 年まで東京天文台の観測所として日本の天体研究を支えてきた施設です。今でも上階には天体望遠鏡が据え置かれ、階下が寝室や食堂、キッチンなど生活スペースになっています。他にもロッジやモンゴル風テントが設置され、「ここには季節を変えてまた来たい」そんなキャンプ場でした。



堂平山天文台兼宿泊施設

そして皆さんに協力いただいた「大人の遠足合宿シリーズ」は、これで終了です。

コロナ罹の時代、新しい企画はなかなか難しいのですが、今後も楽しいシリーズを、と思いますのでどうぞよろしくお願ひします。